



関口昌男 議員
(日本共産党)

問 南小学校周辺の整備問題を伺う

南小学校の周辺は最近住宅建設が進んで環境問題が発生しているが建設の実態はどのようなものか。また、通学路として整備している道路の整備状況はどのようなものか。これら南小学校周辺の道路環境等の整備は先行的に実施すべきと考えるが、市の検討状況を伺う。

答 市内の整備状況などを考慮して検討する

南小学校周辺の開発許可件数は、過去2年間で8件である。通学路は、市道6170号線、白岡第一ノ二号幹線の蓋架け事業を優先し、児童が歩道を通行できるよう工事を行っている。道路環境等の整備は、他の地域の整備状況等を考慮しながら検討していく。

問 難聴者のための補聴器助成制度の実施を

補装具については、障害者には一定支給がなされているが、その実績はどのようなものか。そして一般の難聴者のための全国の補聴器助成制度の実態はどのようになっているか。この制度を市で導入するにはどのような課題があるのか。検討状況はいかがか。

答 国の研究結果を注視していく

2年度の実績は、障がい者が購入5件、修理4件で、障がい児が0件であった。難聴高齢者への補聴器助成制度は、東京都など一部の市区町村において実施している。市では、国の聴覚障害の補正と認知機能低下予防の効果に関する研究結果を注視していく。



石原富子 議員
(TSUNAGU)

問 2040年問題に向けて

団塊ジュニアの世代が高齢者になる2040年には、少子高齢化による支え手の減少、社会保障費の増大といった課題が待ち受けている。市としては市内各地区の実態把握をして、今後の推移を見越し、今から福祉の長期計画を立て、備えるべきと考えるがいかがか。

答 2040年を見据え各種施策に取り組む

すでに活動している団体などから意見を伺うなど地域の実情を把握することは重要であると認識している。高齢者が住み慣れた地域で安心して住み続けられるよう、2040年を見据え、介護予防・健康づくりなど、引き続き各種施策に取り組んでいく。

問 必要な方への不織布マスク購入助成を

新型コロナ感染予防には不織布マスクが極めて有効であるとされるが、使い捨てのため、安価とはいえ各自の金銭的負担が大きい。マスクの購入が生活に特に重く影響する方々に対し、公衆衛生の観点から助成を行う必要があると考えるがどうか。

答 寄附マスクの配布を行っていく

低所得世帯やひとり親世帯等に対しては、生活を支えるための支援が行われていて、家計の負担軽減は図られている。それに加え、寄附を受けたマスクの一部を、フードパントリーを実施する団体等を通して、必要とする方に配布していきたい。



細井 公 議員
(WAKABA)